

子どもが何かを飲み込んだ

赤ちゃんが大きくなって身の回りのいろいろな物に興味を持ち始めると、なんでも口にして、時には飲み込んでしまいます。赤ちゃんの手が届いて口に入るものであれば、いつでも誤飲が起こり得ます。赤ちゃんはどんどん成長しています。昨日までは、“まさか手が届かないだろう”、“この蓋は開けられないだろう”と思っていても、明日には手が届いたり開けられるようになります。また3歳の子どもが口を開けた時の大きさは39mm、喉の奥までは51mmなので、それ以下の大きさのものは簡単に口の中に入ってしまう。



応急処置のポイント

すぐに医療機関を受診

- ✓ よだれが多い・口を開けたままで息をして、苦しそう
- ✓ 咳き込みが多い
- ✓ 吐いてしまった。とくに吐いたものに血が混じっていた。
- ✓ お腹を痛がる
- ✓ うんちに血が混じっている



子どもが誤飲した時の応急処置 ▼

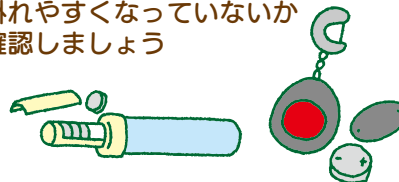


家庭での事故(傷害)予防のポイント

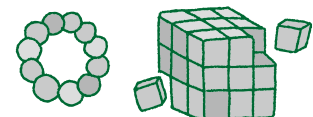
ご家庭にあるボタン電池は、絶対に子どもの手の届かない所に保管しましょう



ボタン電池を使用しているおもちゃなどのふたが外れやすくなっていないか確認しましょう



小型の強力な磁石が使用されているおもちゃで遊ばせないようにしましょう



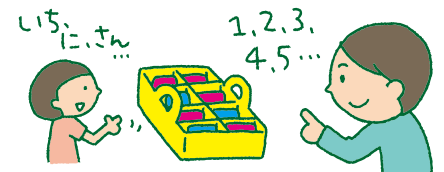
おもちゃのパッケージにある推奨年齢表示に従っておもちゃを選びましょう



上の子どものおもちゃには特に注意しましょう



片付けの時に、あらかじめおもちゃの個数がわかるように習慣つけましょう



実際にあった事例

ボタン電池を飲んだ Injury Alert(傷害速報) No.13

1歳2か月の男の子。居間の引き出しに入っていたボタン電池が1個なくなっていることに母親が気づいた。同時に子どもが何度も嘔吐して、息が苦しそうだったので救急車を呼んで、病院へ搬送された。胸部のX線で食道にボタン電池と思われる異物が認められた。

複数のマグネットの誤飲 Injury Alert(傷害速報) No.66

1歳7か月の女の子。1週間前から腹痛の訴えが何度かあったが、いつも自然によくなるので様子を見ていた。いつものように腹痛を訴えたが、何度も嘔吐したので、近所の小児科を受診した。腹部X線検査で5個連なったマグネットポールと思われる異物がみつかった。3歳の兄のおもちゃとして購入したものだ。

主治医からの
ひとこと